

### 「会うこと」は「知ること」

8日（月）の午後、児童玄関に入ったところで花を生けてくださっている方が見えました。岡田茂吉美術文化財団の服部美智子さんです。20年以上、子どもたちの心の教育の支えになれば…との思いで本校で花を生け続けていただいています。生け花には「足で生ける」という言葉があると以前に何かで読んだ記憶があります。その昔、花屋がまだなかった時代、野山を歩き、労力をかけて花を探したと言われます。だからこそ、花の特徴をよく知り、素材のよさを引き出すことができるのでしょう。今は花屋に行けばたくさんの種類の素敵な花を簡単に手に入れることができます。皮肉にも野山で花を探すことをしなくなった頃から「足で生ける」という言葉が使われてきたそうです。

現在の生活はスマホ一つで検索ができたり、簡単に多くの人とSNSを使ってコミュニケーションをとることができたりしてとても便利です。半面、人とじっくり話したり、自然の中でゆっくり過ごしたりすることがめっきり少なくなったように私自身振り返って感じます。

新年度、職員も大きく入れ替わりました。子どもたちも新しい学級になり、初めて一緒に同じクラスになった子もいることと思います。私たち教職員も新年度のスタートにあたり、全力で子どもたちと関わり、子どものことを知ることができるよう努めていきたいと思っています。

### 子どもの行動には意味がある

私はかつて出会った子どもがきっかけで教育相談を学び、不登校の児童や保護者を支援するボランティアをしてきました。自分の専門性を生かしたい…その思いで活動をしていた時、上の子が4歳でものを食べようとしても喉を通らないという症状を発症しました。友人の小児科に相談したところ、「精神的なものかもしれない」と言われました。ようやく克服したと思った直後、今度は下の子が小学校4年生から不登校状態となり、家から一歩もでなくなりました。「なぜ？どうして？」と自問する毎日が何年も続きました。下の子は中学校を1日も休まず登校し、希望の高校にも入学することができました。私は「子どもの行動には意味がある」とかねてより心に刻んでいます。2人の子どもの経験は渦中にいる時は本当に苦しく、辛い日々でした。ちなみに下の子は高校に入学してすぐに第2期不登校状態となっています。まだまだ、私に教えてくれることがあるようです。

小学校の子どもや保護者の方に対しては同じような思いで、1つ1つ子どもの行動を意味あるものとして見守っています。些細なことでもご心配なことがありましたら、担任をはじめ学校にご相談ください。

